

日本経済史Ⅰ

科目ナンバリング ECH-201

選択 2単位

宮田 純

1. 授業の概要(ねらい)

通史としての日本経済の歴史についての知識受容を通じて、大学生として、社会人として、あるいは今後の生活体系に不可欠な素養の蓄積をはかる。この修練は確実に経済活動を行うこととなる受講生にとって、きわめて有益な場となる。授業の聴講だけでなく、予習・復習を併せもつての学習が必要であるが、授業時に提示する重要キーワードについての事前学習(予習)、および、授業後の加筆も含めた知識の再整理(復習)を継続することにより、知的基盤の確立化がはかられる。

本講義では原始・古代から開国期までを扱う。

2. 授業の到達目標

国際社会の中の日本、ならびに技術開発の進展といった観点から、経済活動の変質を把握し、通史としての日本経済史を把握することができる。

日本経済史を構成する専門用語に対して確実な理解を寄せ、それを適切に使用しながら表現することができる。

日本経済の過去の展開を把握したうえで、それを参考としながら現実を分析し、さらに具体的な未来を構想することができる。

3. 成績評価の方法および基準

試験100%(注:持込等は一切不可)

5回以上欠席した場合は受験できません。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

【予習】授業時に提示した重要キーワード(専門用語)についての事前調査学習

【復習】講義録に私見としての論述を施した再整理

6. その他履修上の注意事項

私語厳禁

7. 授業内容

【第1回】 はじめにーガイダンスー

【第2回】 日本経済史Ⅰの分析視角(1)ー時代区分の観点ー

【第3回】 日本経済史Ⅰの分析視角(2)ー日本経済史Ⅰを組成する要素ー

【第4回】 原始・古代社会の経済

【第5回】 中世社会の経済

【第6回】 戦国期の経済

【第7回】 織田信長の経済政策

【第8回】 豊臣秀吉の経済政策

【第9回】 徳川家康の経済政策

【第10回】 近世日本の経済事象

【第11回】 三大改革の史的意義

【第12回】 近世日本における開発経済論

【第13回】 開国の影響

【第14回】 まとめ

【第15回】 授業内定期試験